

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【海老沼小学校】

学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1)粘り強く学習に取り組み、基礎基本の力をつけることができる資質・能力 (2)学ぶ楽しさを感じ、生き生きと学ぶことができる資質・能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)過去の全国学力・学習状況調査やさいたま市の学習状況調査の結果分析を行い、児童の実態に合わせた授業展開の工夫の実施(各学期に1回以上) (2)学年、キャリア段階の違う教員で教科グループを組み、授業案作成及び授業公開・協議会による教職員の授業力向上を図る(年間)

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
	↓	さいたま市学習状況調査(学力) <小3～中3>(1月)
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
結果から考えられる 児童生徒の実態	

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語は概ねどの項目においても全国平均を上回っているが、算数は全ての項目において全国平均を下回る結果となり、課題がみられた。 具体的な内容において、国語では、知識及び技能「情報の扱い方に関する事項」と思考力、判断力、表現力等「読むこと」の問題の正答率が、全国平均を下回る結果となっていた。また算数では「図形」「測定」「データの活用」の領域で問題の正答率が低い傾向であり、思考・判断・表現の観点に課題がみられた。
結果から考えられる 児童生徒の実態	国語及び算数の結果の双方から、長文を根気強く読み、題意を理解することに課題があると考えられる。問題文をよく読まずに解答して誤答になってしまったり、長い文章に直面した時点で諦めてしまったりする場面などが、普段の研修の中でも話題にあがっている。基礎学力の向上を目指し取り組んでいく中で、知識・技能のポイントは昨年度との比較から一定の習得が見られているため、応用部分である、問題の意図を捉えていく力の向上が必要であると考えられる。

③	中間評価
学力向上策の 実施状況	評価(※) B
学力向上策の 見直し	研修での取り組み(朝学習の計画や公開授業の計画)や授業改善(授業実践と見合い)を柱に、学力向上を目指してきた。Teams上での授業実践の共有やクラウド上での教材資料の共有によって、教材研究の時間が増やせるようにし、児童の学力向上につながるよう実践してきた。そこから、国語や算数の基礎となる力(知識・技能面での全国平均との差の向上)がついてきたことが見える。 問題文が長かったり、資料の情報が多かったりした場合、簡単に諦めてしまう傾向がある。そのため、問題文や与えられた情報から、必要な部分を読み取る力をつける必要がある。学校課題研究の中で、情報を共有し、以下の点について取り組んでいく。 ・朝時間を利用し、タブレット端末を用いたミニテストの実施 ・朝読書の時間を重視し、読書量の向上 ・国語での文章を読み深める時間の確保 ・算数文章問題の題意の読み取り方の指導強化

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)